

会社名: (有)ホリケン		承認	承認	承認	承認	承認	承認
第96回 (有)ホリケン 安全協議会・勉強会 議事録							
実施年月日	令和2年6月6日	進行者(責任者)		堀 峰也			
時間	18:00~19:00	議事録作成者		■■■■■			
場所	ホリケン本社	出席者		別紙参照			
1、勉強会挨拶 【5分】	●(有)ホリケン 堀 峰也	作業員:手術前に職長へ連絡「今、病院にいるため翌日の施工自主検査に行けません。」					
		職 長:「わかった」と話す。「なぜ病院にいるのか?」と尋ねる。					
		作業員:「目に何か入ってるらしい。終わったら電話します。」					
2、熱中症について 【10分】	●(有)ホリケン ■■■■■	連絡を待ち職長から専務へ「作業員が目の手術をするため、明日の施工自主検査には行けず、					
体の外や体の中で発生する「熱」の影響により引き起こされる体の不調のことをいいます。		終わったら電話するとのこと」と連絡があった。					
私たちの体には「体温調節機構」が備わっており、暑いときには汗をかいて体表面から熱を逃がし		その後、作業員から連絡は来なかった。3日後の朝9時に作業員から専務に連絡があり					
上がった体温を冷やそうとするはたらきがありますが、一度に大量に汗をかくと		作業員:「目を手術して入院しています。現場で施工した際の釘連結ワイヤーが目に入ったのが原因で					
水分や塩分が体内から失われ体液のバランスがくずれて、けいれんを起こしたり、		それを取り除く手術をしました。」					
気を失ったりといった体の不調が起こります。		労働災害処理をする判断をし、作業員から社長へ連絡するよう指示をした。					
このような状態も、熱中症の典型的な例です。熱中症の予防には、「水分補給」が大切です!		作業員は社長へ連絡し、専務は元請の担当者様へ連絡をした。					
※コロナウイルスの影響でマスクを使用する頻度が増えました。		※災害発生報告までの経緯となります。					
マスクをしたままの活動、作業は熱中症を引き起こしやすくします。毎年以上に熱中症に注意してください。		【原因・問題点】					
		①保護メガネを使用せず、くぎ打ち機を使用していた。					
		②古いくぎ打ち機を使用しており、防塵カバーがついていなかった。					
		③労災と判断するまで3日も経ってしまい、元請様への連絡が遅れてしまった。					
3、労働災害事故事例【40分】	●(有)ホリケン ■■■■■	3日前に職長に連絡が入っていたが、社長や専務へ作業員から連絡がなかった。					
作業員:洗面所の床下点検口の施工時に、くぎ打ち機を使用して、受け残の固定を行っていた。		職長は現場での災害かもしれないという認識があったが、また連絡するといわれたため					
点検口から覗き込み、斜め下からくぎ打ち機にて固定していた。		連絡が来てからの判断でよいと思っていた。					
その際、釘の連結ワイヤーが飛散し、顔に当たった。目に衝撃があったが、		専務は「目に何か入っている」と言われたため、現場での災害だと思わなかった。					
血も出ていないことから気に止めなかった。		また連絡すると言われたが来なかったため、たいした事ではなかったのだろうと思い込んでしまった。					
作業が完了したため、特に誰にも報告せず、現場から退場した。							
その後、目に違和感があり近所の眼科に行った。眼球に異物が刺さっている状態だった。							
大学病院へ行くよう指示があり、そのまま大学病院へ行った。							
大学病院では、角膜奥の水晶体の中にワイヤーの破片が入っており、		4、現場でわからないことや疑問点 【5分】		●(有)ホリケン ■■■■■			
錆びたりすると失明してしまうため、その日のうちに緊急手術を行うこととなった。							

参加者氏名は、個人情報につき非表示とさせていただきます。

出席者名簿		日時	令和2年6月6日
		実施会社名	(有)ホリケン
代表取締役氏名	堀 峰也	工事担当者氏名	■
有限会社 ホリケン			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

勉強会写真

